



ジャパン・エンヂニアリング(株)



「スマイルジョイント」給水用
(ポリエチレン管用非融着継手)

○本社所在地：東京都世田谷区羽根木2-30-2

○事業概要：ステンレス管・高性能ポリエチレン管を中心とした配管材料の設計・加工・販売

○常時使用する従業員：187名
(グループ全体：2025年9月時点)

○現在の売上高：65.3億円

(グループ全体：2025年9月期)

○法人番号：7010901027316

○Web：<https://www.japan-eng.co.jp/>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
南雲 一郎

【企業理念】当社グループは社会インフラを支える“加工管”の専門メーカーとして、確かなものづくりでお客様の信頼に応えます。

『描く・造る・組立てる・ジャストインで配送する』を社会や顧客に対するミッションと捉え、現場作業の負担軽減を追求します。重から軽への“発想の転換”で重い管から軽い管へ変更することで、産業の省エネルギー化と近年の温暖化に対する建築現場作業者の負担を減らします。作業負担を軽減することで熱中症などの労働災害を防ぎます。軽量化技術によって運搬・施工の効率を含め資源を無駄にしない社会づくりに貢献します。オフサイト化による“品質安定”、“効率化”、“人手不足”的解消に取り組むことにより建設業界全体の課題解決に貢献するとともに、持続的な成長を通じて売上100億円企業を目指します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

- グループ全体で、2035年9月期の売上高100億円達成に向け、毎年5～10%の成長を目指す
- 成長実現のために、新たな事業拠点の整備を進める
- 新規事業＝オフサイトでの加工管ユニット製作に本格参入
- 生産性を向上させるため、積極的な設備投資（レーザー溶接機、バット融着機等）を進める
- 「重から軽へ」＝軽い配管材料をオフサイト化の提案で、建設業界の課題解決に貢献する

課題

- 新工場立ち上げのための資金調達
- 事業拡大のための人員補充
- 新規事業のための技術者の育成、増員
- グループ内での生産性を高める、IT化の推進
- 新たに商圈を開拓するため、グループ全体でのバックアップ体制の構築、営業マンの増員

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- これまで東日本中心の商圈であったところ、新たに関西に新工場を開設(2026年4月稼働開始予定)し、西日本で本格的に事業展開
- 従来の事業所とも近い千葉県内に、新規にユニット組み立て工場を開設(2026年1月稼働開始予定)、新たな分野での販路拡大
- 省人化のための機械設備の積極導入（レーザー溶接機、バット融着機等）
- BIMとの連携強化、お客様(設備施工専門会社)とのシームレスな加工連携を実現

実施体制

- 新規、中途を含めた計画的な人材採用活動を実施
- 設備業界の変化に対応できるよう、全工場を再編し、新しい製造・出荷体制を構築する
- 新規事業＝ユニット製作にかかる技術者人材の積極採用
- 現場の工程を最適化する、ワンストップサービス+ジャストイン配達体制の構築
- 時代の流れに即したオフサイト化を、建設会社様、設備施工専門会社様と協業して進める
- 素材メーカーとタイアップした、樹脂管プレハブの新機軸の構築

売上高100億円実現に向けた具体的な措置

□ 関西に新工場開設

建設現場において人員不足が加速しており、プレハブ加工管の需要はますます増えるものと思われる。

従来関東の工場から、日本全国へ納品していたが関西へ工場を新設することにより、**西日本の需要にも対応**できるようとする。

新工場においては軽量なステンレス管や、高性能ポリエチレン管を加工することにより、現場の作業負担を軽減、省力化に寄与する。

特に気温の高くなる夏期には労務負担の軽減が熱中症対策にもなる。

□ 千葉県内にユニット組み立て工場を新開設

昨今の建設現場では、従来建設現場で組み立てを行っていた作業を**工場（オフサイト）で組み立てる（＝ユニット化）**する動きが多くなっている。建設現場の人員不足により今後ますます需要は増えるものと思われる。また、ユニット化することにより運搬回数の削減や現場での廃棄物を削減することで環境負荷低減にも寄与する。

新工場位置は、従来の事業所とも近い千葉県内に新設する。

□ 省人化のための機械設備の積極導入

補助事業等を活用し、新工場はもとより従来工場へも**積極的に設備導入（レーザー溶接機、バット融着機等）**をする。

新規事業の開拓、従来事業の規模拡大を狙う。



当社グループの
推進体制

株式会社ジャパン・ホールディングス
不動産・賃貸

ジャパン・エンヂニアリング株式会社
配管工事用附属品製造業
プレハブ加工管 設計・製造・販売

ジェス株式会社
水道管加工製造業 プレハブ加工管 製造業

売上高100億円実現に向けた具体的な措置

スローガン

描く 

3DCADを活用した図面を作成することで、フロントローディングとして後工程の省力化、手戻りをなくす。

造る 

プレハブ加工管はもとより、ユニット加工に必要な鋼材加工や副資材も一括加工することにより現場の省力化を図る。

組み立てる 

造る工程で製作した各材料をユニットとして組み立てる。工場加工、検査済みの高品質な材料を届ける。

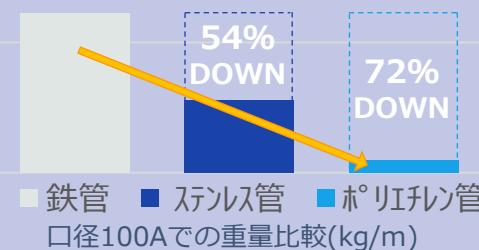
ジャストインで
配送する 

管工機材商社とも連携し、当社製品やユニットに加え、配管副資材も一緒に納品する。現場の荷受け回数や運搬回数の低減に寄与する。

鉄管からステンレス管やポリエチレン管への提案『重から軽へ』

施工性の向上

- ステンレス管、ポリエチレン管は軽く、現場の作業負担が減る



重量が約1/3のため大幅な軽量化となり、施工性、安全性が向上します。転倒にかかる重量も軽減され、コストダウンにつながります。

コストダウン

- 流量係数の差で配管口径をサイズダウン可能。サイズダウンにより材料費、工費を削減

健康被害対策

- 労働安全衛生法 鉄管の溶接ヒュームによる健康被害低減
- 軽い！=熱中症対策

資産価値

- ステンレス管は財産。スクラップにした場合高く売却可能

長寿命

- 鉄管に比べて耐久性に優れるため、長寿命